

西アジア考古学セミナー

# ハッサンケイフ遺跡における 考古学的調査と遺跡救済プロジェクト

アブドゥセラーム・ウルチャム教授  
(トルコ共和国・バットマン大学)

ハッサンケイフ遺跡はトルコ南東部のバットマン県に位置する、新石器時代とイスラム時代を中心とする複合遺跡です。イスラム時代には12世紀初頭から130年間にわたりアルトゥック朝の首都として栄え、ティグリス川に面する切り立った崖の上に築かれた宮殿、「下の町」に聳えるミナレット(モスクの尖塔)、美しい青いタイルで装飾された墓廟などに今でも往時の姿を偲ぶことができます。こうした独特の歴史的景観は多くの人を惹きつけてやみませんが、ティグリス川の下流に建設中のダムによって遺跡の75%近くが水没してしまうという危機に瀕しています。

筑波大学を中心とする考古学調査団は、この遺跡群を構成するハッサンケイフ・ホユック遺跡において発掘調査を実施してきましたが、今回本プロジェクトの統括責任者であるウルチャム教授らを本学にお招きし、ハッサンケイフ遺跡の歴史とプロジェクトの概要について紹介していただくことになりました。



日時: 2013年 3月 26日 (火)  
午後 2:00-4:00

会場: 筑波大学総合研究棟  
A110 (大学本部棟西隣)

使用言語: トルコ語(日本語通訳あり)

\* 申し込み不要。参加無料。

<http://rcwasia.hass.tsukuba.ac.jp>

科学研究費補助金基盤研究(A)『西アジアにおける初期定住集落の研究』

研究代表者: 歴史・人類学専攻 三宅 裕

筑波大学プレ戦略イニシアティブ『西アジア文明研究センターの構築』

研究代表者: 歴史・人類学専攻 常木 晃

